

4月 5日 「収穫は、早くても来年の秋」にびっくり!



しいたけの原木に菌を打ち込む参加者

雪入でしいたけの植菌作業
市では、雪入ふれあいの里公園で、「きのこを育てよう」と題し、しいたけの育て方講座を開催しました。
この講座は、植菌した原木を3本持ち帰りができることもあり、人気を博しました。参加できた20人は、講師の雪入山友の会(久保田美穂会長)の齋藤公一さんの指導を受けながら、参加者同士協力して作業を進めていました。
齋藤先生が、「今日植菌した原木からしいたけが収穫できるのは、早くても来年の秋で、収穫は1年おきになるでしょう」と説明すると、参加者は予想外のしいたけの性質に驚きながらも、収穫を心待ちにしている様子でした。
作業の後、参加者は炭火で焼いたしいたけなどを味わいながら、春の雪入の自然を満喫していました。

地域の安全・安心を呼びかけ 4月 24日

市内で起きた 啓発内容のひとつ

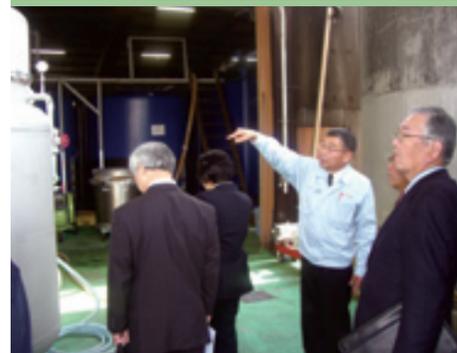
防犯情報などを配信
ひばりくん防犯メール
次のアドレスにメールを送ると、折り返し登録案内のメールが返信されますので、案内に従い登録してください。
(登録無料、パケット通信代はかかります)
アドレス: add@mail1.police.pref.ibaraki.jp
QRコード機能付の携帯はこちらからアクセスできます。

春の地域安全運動キャンペーン
安全で安心できる地域づくり活動の一環として、土浦警察署と土浦地区防犯協会による、「春の地域安全運動キャンペーン」が行われました。
活動には、市や防犯ボランティアの関係者およそ40人が参加し、振り込め詐欺を注意するものや、自転車を指定販売店で防犯登録すること、車上ねらいの被害に遭わないようにするポイントなどが書かれた啓発物を午後4時から1時間、買い物客などにぎわう千代田ショッピングモール駐車場で配布しました。



子どもたちに啓発活動する 県警のマスコット「ひばりくん」

4月 28日 市に地酒を! “焼酎づくり推進協議会” 発足



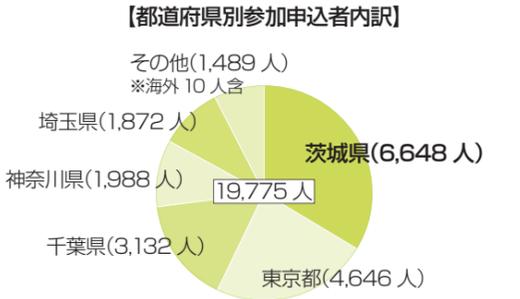
総会後に水戸市内の醸造元を視察する会員

第1弾に「やきいも焼酎」を検討
市では、昨年度から市内の遊休農地対策と特産品の開発を目的に「やきいも焼酎」の商品化を検討し始め、4月28日に製造や販売活動の母体となる「かすみがうら市焼酎づくり推進協議会」設立総会を開催しました。
総会では、協議会の会長に、市商工会会長の小池森四郎氏が選任され、今年の10月を目標に「やきいも焼酎」数千本を限定製造し、11月のかすみがうら祭で発表するなどの計画を決定しました。
小池会長は、この「やきいも焼酎」について、「もともと市の土壌はイモの生産に適しており、良質のものが生産されてきた。遊休農地解消の起爆剤にしていきたい」と意気込みを話しました。



4月 20日 第18回かすみがうらマラソン 兼国際盲人マラソンかすみがうら大会

大会過去最高の20,118人がマラソン・ウォーキングにエントリー!
東京マラソン、沖縄のNAHAマラソンに次ぎ日本で3番目にエントリー者が多い市民マラソンに成長 (実際の参加者数は16,805人)



シドニーマラソンと姉妹マラソンに

KASUMIGAURA MARATHON, JAPAN
「シドニーマラソン」・「かすみがうらマラソン」姉妹マラソン提携調印式

大会前日に土浦市内で行われた協定調印式
(左から: 坪井市長、ウエイン・ラーディン シドニーマラソンイベントディレクター、中川土浦市長)

発展を遂げるかすみがうらマラソン
午前9時40分、適度に張り詰めた緊張感のなか、10マイル選手のスタートを皮切りに、午前10時、坪井大会副会長の合図でフルマラソンが、またその20分後には5kmの部がスタートし、土浦・かすみがうら市中に向け選手が滑走しはじめました。
今年は、本大会の更なる飛躍と国際化を図るため、毎年9月に開催されているオーストラリアのシドニーマラソン(昨年参加者: 1万6千人)と姉妹マラソン協定を締結。今後、優勝選手の交換などの相互交流を行い、友好の絆を深めていくことを約束しました。
また、今大会から、長時間にわたるフルマラソンの参加者が栄養補給できるよう、歩崎の給水所にはバナナの他に菓子パンを設置、口にくわえたほかに2・3個手にしていく参加者も見受けられました。



歩崎の給水所でパンを手にとるランナー